

第二回京都府設計津波水位検討委員会の開催結果概要について

- 1 開催日時 平成28年12月20日(火) 午前9時30分～午前11時30分
- 2 場 所 京都府福利厚生センター 3階第4・第5会議室
- 3 出席委員 井合委員長、間瀬委員長代行、澤田委員、鈴木委員
- 4 オブザーバー 舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町
- 5 結果概要

(1) 第一回委員会開催結果概要について

- ・第一回委員会での決定事項について確認した。

(2) 設計津波の検討について

①過去に発生した津波の実績津波高さの整理

- ・京都府沿岸に影響のある地震津波の調査結果として、歴史津波の痕跡記録およびデータ信頼度、今後の海溝型地震の発生確率を報告し、内容について確認した。

②再現計算の検証

- ・1983年日本海中部地震津波、1993年北海道南西沖地震津波の既往2津波については、歴史津波の痕跡を補完する再現計算(津波シミュレーション)を実施し、痕跡高および検潮記録との比較検証の上、整合性について確認した。
- ・津波シミュレーション結果の妥当性を確保するため、舞鶴港の日本海中部地震津波の検潮記録から、天文潮位と長周期振動(湾水振動)を差し引いた結果とシミュレーション結果の波形を比較することとした。

③設計津波の対象群の設定

- ・痕跡記録、既往2津波の再現計算結果による津波水位、および国の定める60断層により発生する可能性のある地震津波の水位を地域海岸別に整理し、京都府沿岸における設計津波水位の対象津波群は、日本海中部地震津波と北海道南西沖地震津波を選定した。
- ・なお、国の定める60断層のうち、空白域※に該当する震源に伴う府沿岸での津波の特徴を整理し、次回委員会で報告することとした。(※過去の震源モデルが知られていない想定震源域)

④設計津波水位の設定案

- ・選定した日本海中部地震、北海道南西沖地震による津波について、府が想定した防護ライン(堤防位置)における津波の侵入の防止を条件とした津波シミュレーションを行い、計算した津波水位を地域海岸別に整理した。
- ・次回委員会では、既設の海岸保全施設の整理の他に、背後地盤高が高く、対策不要と判断される箇所についても整理し、設計津波水位(案)との比較検討結果を提示することとした。
- ・津波は地形的な理由により局所的に増幅する箇所があることから、設計津波水位を決定するにあたっては、府が設定した最大クラス津波や、国の定める60断層のうちの日本海中部地震相当の断層などについても、局所的な増幅が発生する箇所について整理することとした。

以上